

第 76 回日本矯正歯科学会大会

臨床セミナー1『埋伏歯の診断と治療』

講演タイトル

和文タイトル：上顎犬歯萌出障害に起因する切歯歯根吸収の早期診断法とその臨床応用について

英文タイトル：Clinical application of early diagnosis of maxillary incisor root resorption
due to eruption disturbance s of canines

いなげ矯正歯科医院

稲毛 滋自

講演抄録

本講演では、埋伏する上顎犬歯を萌出障害という視点でとらえ論を展開したいと思う。

上顎犬歯萌出障害の一般集団での発現頻度は、0.8～2.9%と報告されている（Kurol et al, ）。日本人小児では上顎中切歯に次いで多く、全永久歯の中で智歯を除くと約15%を占めると報告されている（Noda et al、2006）。

片側性の上顎犬歯萌出障害に起因する切歯歯根吸収のリスクを予見することを目的として、日本臨床矯正歯科医会神奈川支部学術委員会（以下、神奈川学術と略す）が考案した、パノラマ X線写真（以下、パノラマと略す）を用いた数値解析方法を紹介する。その概略は、上顎犬歯による切歯歯根吸収が認められた側を患側、他方を健側とし、1項目の角度計測と2項目の距離計測をおこなった後、患側の計測値を健側の計測値で除した値を予見のための評価値とするものである。

神奈川学術が考案した数値解析方法の有効性を確認するために、公益社団法人 日本臨床矯正歯科医会会員 19名より提供された上顎犬歯による切歯歯根吸収が片側性に認められた 103症例（男子 37名、女子 66名、8歳3か月～26歳7か月）のパノラマから得られた上記評価値に、年齢と Hellman の歯牙年齢を追加して検討を行った。103症例中3種類の評価値を同時に満たす症例は 90例 87.4%と高い頻度を示し、上顎犬歯による切歯歯根吸収は 10歳または III B の時期になると急激に増加することが判明した。

上顎犬歯萌出障害に起因する切歯歯根吸収を未然に防ぐために、年齢では8歳までに Hellman の歯牙年齢では A期にパノラマを撮影し、上顎犬歯による切歯歯根吸収のリスクをスクリーニングする必要性が示唆された。スクリーニングの結果、切歯歯根吸収のリスクありと診断された症例について対処法を提案したい。